



環境報告書2008

国立大学法人電気通信大学

目 次

| | | |
|------|-----------------|-----|
| I | 環境配慮の方針 | 1p |
| II | 大学概要 | 2p |
| III | 環境配慮の推進体制 | 2p |
| IV | 環境関連法令等の遵守状況 | 3p |
| V | 環境配慮の取組状況 | 4p |
| 1 | 地球温暖化対策 | 4p |
| 1-1 | 取組 | |
| 1-2 | 取組結果 | |
| 2 | 省資源、廃棄物の抑制 | 6p |
| 3 | 環境の維持及び化学物質等の管理 | 7p |
| 4 | 環境に係る教育研究 | 8p |
| 5 | 環境に関する図書の数 | 10p |
| 6 | 構内の緑地保全 | 10p |
| 7 | その他の環境保全活動 | 10p |
| VI | 環境配慮の目標及び計画 | 11p |
| VII | 環境報告書ガイドライン対照表 | 12p |
| VIII | 環境報告書の作成にあたって | 13p |

Ⅰ 環境配慮の方針

学長の緒言

電気通信大学は、環境に関して下記に掲げる「環境方針」に基づいて活動しております。

全地球的な課題である地球温暖化対策として、温室効果ガスの総排出量の削減に向け、省エネタイプの設備への転換、冷暖房温度の省エネ対応など様々な対策に取り組んでおりますが、目標達成には今後一層の努力が必要です。また、省資源の観点から、水使用量の削減、100%グリーン製品の調達などでは効果が表れていますが、コピー紙の使用量は若干増えており、より一層のペーパーレス化などへの取り組みを促進しなければなりません。さらに、教育研究上の必要から有害な化学物質を含むさまざまな物質が使用されていますので、管理には万全を期しております。本学では、安全・環境保全室の下で教職員の意識向上を図ってきておりまして、幸いにもこれまで事故等は発生していません。今後とも慢心することなく、日々の地道な事故防止活動を進めてまいります。

人類にとってかけがえのない自然環境を守ることは、事業所を預かる者の基本的な責任であることを肝に銘じ、キャンパスで働き、学ぶ全ての者ひとりひとりの責任でもあることを自覚させ、なお一層の改善に取り組む覚悟です。



2008年9月25日
国立大学法人電気通信大学
学長 梶谷 誠

国立大学法人電気通信大学の環境方針

わたしたち人類は文明の発展とともに、地球の温暖化、化学物質による汚染など、さまざまな環境問題に直面しています。

電気通信大学は、人類にとって地球環境の保全が最も重要な課題の一つであるとの認識に立ち、自然と人間の共存、環境との調和に寄与し、教育・研究活動による環境負荷の低減に努めます。また、武蔵野の面影が残る緑豊かなキャンパスを維持し、地域に貢献し開かれた大学を目指します。

このため、次の事項を推進していきます。

1. 教育・研究活動から生じる環境負荷の低減と、環境の維持・改善
2. 省エネルギー・省資源、資源リサイクルへの取り組みの推進、グリーン購入の徹底
3. 本学に適用される環境関連法規、条例等の遵守
4. 武蔵野の地にふさわしい緑豊かなキャンパスの保全、環境の維持・改善活動のための地域社会や自治体との連携・協力
5. この環境方針を達成するために目標の設定と、教職員、学生及び学内関連事業者の協力による実現

この環境方針は文書化し、本学の教職員、学生、大学生協など常駐する学内関連事業者に周知するとともに、文書やインターネットによるホームページを通して、本学関係者以外へも広く公表します。

II 大学概要

電気通信大学は、「情報、通信、および関連する諸領域の科学技術」に関する教育研究を行い、人類の未来を担う人材の育成と学術の研究を通じて、文化の発展に貢献することを目的としています。

現在、電気通信学部（7学科）、大学院電気通信学研究科（7専攻）、大学院情報システム学研究科（4専攻）や教育及び研究に関するセンターなどで構成されています。

(1) 大学名称

■国立大学法人 電気通信大学

(2) 所在地

■〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

(3) 教職員・学生数（2007年5月1日現在）

■教職員:501名 学生:5,572名 合計:6,073名

(4) 施設面積等

■土地:115,433 m²・建物面積:136,287 m²

(5) 教育研究組織（2007年度）

■電気通信学部(7学科)

情報通信工学科,情報工学科,電子工学科,量子・物質工学科,知能機械工学科,システム工学科,人間コミュニケーション学科

■大学院電気通信学研究科(7専攻)

情報通信工学専攻,情報工学専攻,電子工学専攻,量子・物質工学専攻,知能機械工学専攻,システム工学専攻,人間コミュニケーション学専攻

■大学院情報システム学研究科(4専攻)

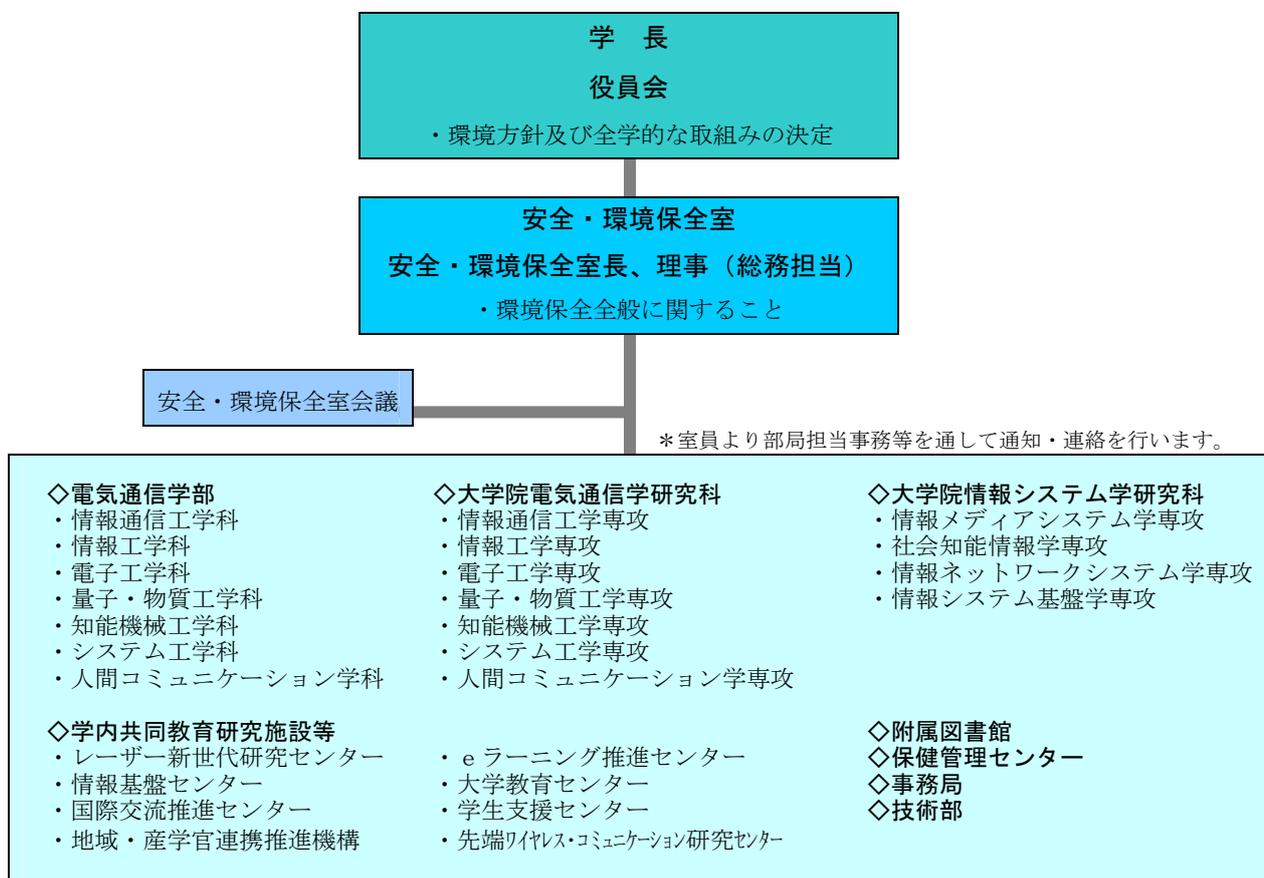
情報メディアシステム学専攻、社会知能情報学専攻、情報ネットワークシステム学専攻,情報システム基盤学専攻

■学内共同教育研究施設等



III 環境配慮の推進体制

環境保全活動を計画・実施し、環境配慮の対策を行うための推進体制は次のとおりです。



IV 環境関連法令等の遵守状況

次表の環境関連の法令、条例が本学にも適用されており、これらを遵守しています。

| 環境関連法令等(略称) | 規制及び報告書等の作成義務等 |
|--------------|--|
| 環境配慮促進法 | 環境報告書の公表 |
| 省エネルギー法 | 年 3,000kl 以上の熱と電気を合算した使用量:第一種エネルギー管理指定工場(熱・電気)に係るエネルギー管理員や熱・電気のエネルギー消費等の定期報告・中長期計画書の提出 |
| 環境物品等の調達推進法 | グリーン購入調達方針と実績の報告公表 |
| 廃棄物処理法 | 適正な収集処理業者への委託 |
| | 産業廃棄物のマニフェスト管理 |
| | 特別管理産業廃棄物の特管責任者の設置とマニフェスト管理 |
| 労働安全衛生法 | 安全衛生責任者、産業医等の選任、作業環境、有害物等各種検査・報告・届出等、健康管理、安全衛生委員会の設置等 |
| 建築基準法 | 特殊建築物等(建築物、建築設備、昇降機)定期調査・報告 |
| 消防法 | 一定規模以上の危険物使用保管の届出 |
| 炉規法 | 使用承認と管理状況の国への報告と規程遵守 |
| 高圧ガス保安法 | 高圧ガス(LPG、液化窒素:7,063kg)の貯留の管理基準遵守 |
| 大気汚染防止法 | ボイラー・吸収式冷温水発生機のばい煙排出量の測定と報告 |
| PCB 廃棄物特別措置法 | PCB 含有の高圧コンデンサ、高圧変圧器、照明用安定器の適正保管 |
| フロン回収破壊法 | フロン使用製品(業務用空調機や自動車エアコン)の回収業者への引渡し |
| 建設リサイクル法 | 一定規模以上の工事のリサイクル計画書の提出 |
| 自動車リサイクル法 | 自動車車検時の廃棄料支払い |
| 家電リサイクル法 | 指定家電の廃棄処分時の廃棄料支払い |
| 騒音規制法・振動規制法 | 建設工事等における騒音及び振動の規制値の遵守 |
| 水道法 | 専用水道(井水原水・末端水栓)の水質検査を行い毎月報告 |
| 都環境確保条例 | 地球温暖化対策計画書と温室効果ガス排出状況の報告 |
| | ディーゼル車の排出ガス規制の遵守 |
| | 駐車場(20 台以上)でのアイドリングストップ表示 |
| | 地下水揚水施設の届出と揚水量の報告 |
| | 化学物質の適正管理 |
| | 石綿含有建築物解体等工事に係る届出等 |
| 都廃棄物条例 | 産業廃棄物適正処理報告書の提出 |
| | 事業系一般廃棄物の処理 |

V 環境配慮の取組状況

2007年度の環境配慮の目標及び計画に対する取組の実施状況は以下のとおりです。

地球温暖化対策の取組や教職員・学生の環境に対する意識の向上により徐々に効果が現れています。

1 地球温暖化対策

1-1 取組

目標：温室効果ガスの総排出量を 2009 年度に 7,501t-CO₂/年を目標として温室効果ガスの削減を図っていきます。

※総排出量は温室効果ガスの排出に係る措置の見直しにより 7,088t-CO₂/年(環境報告書 2007)を変更しています。

① 空調設備の取組

- ・ 7月末の学生の前期試験期間を除く、空調負荷の少ない時期は、空調用の冷凍機2台のうち1台を運転し、エネルギー使用量の削減を図りました。
- ・ 暖房用ボイラー、吸収式冷温水発生器の空気比を基準値内に納まるように調整しました。
- ・ 冷房負荷が低い時は、外気温度に合わせて冷温水の温度管理を実施しました。

② 電気設備の取組

- ・ 高効率の変圧器への更新を行いました。(本館)
- ・ 廊下、トイレの照明を人感センサー付照明器具への更新を行いました。(西3, 4, 7号館)
- ・ 改修工事にあたり照明器具を省エネ機器に更新しました。

③ 自然エネルギー発電システム

- ・ 2006年度に講義棟の屋上に設置した太陽光(3.2kw×2面)と風力(0.5kw×2機)を併用した「自然エネルギー発電システム」により8,497kWh発電し省エネルギー、温室効果ガス削減に貢献しました。

④ 屋上緑化、遮熱塗装

- ・ 空調負荷の低減のために屋上緑化(本館別館)、遮熱塗装(講堂、本館別館、L棟)を行いました。

⑤ 室内基準温度の夏季28℃、冬季20℃設定、昼休み1時間消灯をはじめとした不要照明の消灯、コンセントを抜いて待機電力の削減の徹底のため省エネキャンペーンポスターを作成し呼びかけました。

⑥ ホームページ上に電気、ガス、下水道使用量等を公表しました。

⑦ 8月の夏休みには、エレベータの2台運転を1台運転にしました。

⑧ 夏季(6月~9月)の軽装を励行しました。

⑨ 夏季の一斉休業(全学2日間)を実施しました。



本館別館屋上緑化



2007 省エネキャンペーンポスター



1-2 取組結果

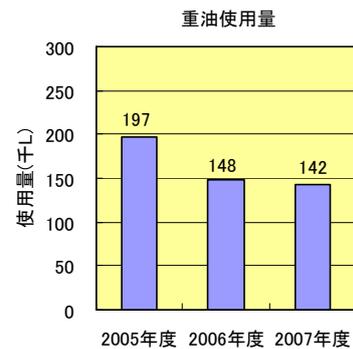
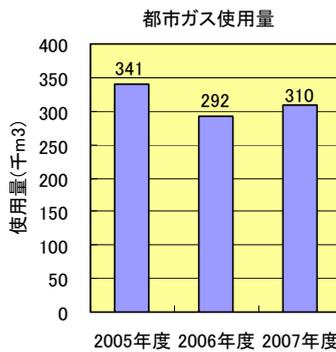
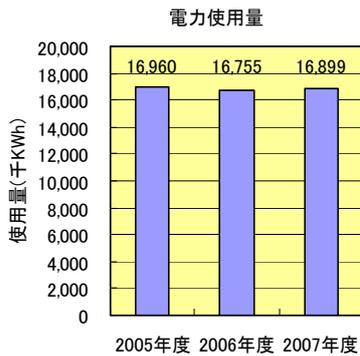
● 総エネルギー投入量

総エネルギー投入量は、購入した電力、都市ガス、重油から熱換算係数を用いて算出しています。2007年度は、前年度より2,053GJ(1.1%)増加しています。



※単位(GJ)について
 熱量換算係数は以下のとおり
 電気 昼間 9.97GJ/千kWh
 夜間 9.28GJ/千kWh
 都市ガス 45.0GJ/千m³
 重油 39.1GJ/kl
 ※熱量換算係数は、東京都の地球温暖化対策による。

2007年度の各エネルギー使用量は、残暑が厳しく月別平均気温が対前年度比8月+1.4℃、9月+1.6℃であり、冬も厳冬で1月-1.5℃、2月-3.1℃であったことが影響し、前年度に比べ電力144千KWh(0.9%)、都市ガス18千m³(6.2%)が増加し、重油は6千L(4.1%)減少しています。



● 温室効果ガス排出量

市民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づき「地球温暖化対策計画書」を提出しており、計画期間(2005年度～2009年度)で、CO₂総基準排出量8,047t-CO₂から7,501t-CO₂(▲546t-CO₂)まで削減することを計画しています。2007年度は総基準排出量と比較して393t-CO₂のCO₂排出量を削減しましたが、前年度より、82t-CO₂増加しています。

折れ線グラフは建物延べ床面積当たりの温室効果ガス量(原単位)を表しています。



※単位(t-CO₂)について
 排出係数(t/GJ)は以下のとおり
 電気 昼間 0.403 t/GJ
 夜間 0.354 t/GJ
 都市ガス 0.0513t/GJ
 重油 0.0693t/GJ

※温室効果ガス排出換算係数は、東京都の地球温暖化対策による。

※原単位の建物延べ床面積は、下記による。

| | |
|--------|------------------------|
| 2005年度 | 133,421 m ² |
| 2006年度 | 133,421 m ² |
| 2007年度 | 132,264 m ² |

2007年度は建物のとりこわしにより減少しています。また、学生寮、国際交流会館の住居施設は除いています。

2 省資源、廃棄物の抑制

目標1：水使用量の削減に努める。

- ① 上水道
上水は地下水と水道水を利用しており、地下水が上水全体の99%を占めています。
節水対策として改修工事で手洗い器の自動水栓への交換などを進め、使用量は減少しています。
- ② 下水道
下水道への排水量を削減し、雨水を地下に還元するため改修工事では、浸透枳の設置をしました。



目標2：e-キャンパスモデル校を目指して環境整備を推進し、コピー紙削減を図る。

- ① 会議資料閲覧システムやプロジェクターの使用により紙資料の削減を図っています。
- ② ペーパーレス化のために、これまでの実績を整理するとともに、今後の計画を取りまとめ、経費節減や事務の簡素化方策とともに学内に公表しています。
- ③ コピー用紙は、両面コピーの推奨、コピー裏面の有効活用により使用量の削減に努めています。
- ④ 2007年度は本学の将来展望を検討する等の会議等が多かったため、コピー用紙の使用量が増加しています。



目標3：省資源で廃棄物量を抑制し、リサイクルに努める。

- ① 100%グリーン製品の調達
事務用品や事務機器、家電製品などは100%グリーン製品の調達を目標としていますが、研究・実験のために機能上の必要性があることと、全国的な古紙不足等により年度後半に入手が困難になったことから、紙類は一部特定調達物品以外の物品を購入しました。

グリーン購入・調達状況

| 分野 | 摘要 | 全調達量 | 特定調達品目調達量 | 特定調達品目調達率 |
|-------------|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 紙類 | コピー用紙等 | 70,120 kg | 55,100 kg | 79% |
| 文具類 | | 111,225 個 | 111,025 個 | 100% |
| 機器類 | 事務機器等 | 542 台 | 542 台 | 100% |
| OA機器類 | コピー機等(リース含む) | 2,105 台 | 2,105 台 | 100% |
| | 記録メディア、一次電池等 | 2,720 個 | 2,720 個 | 100% |
| 家電製品 | 電気冷蔵庫、テレビ等 | 12 台 | 12 台 | 100% |
| エアコンディショナー等 | | 2 台 | 2 台 | 100% |
| 照明 | 蛍光灯等 | 3,400 本 | 3,400 本 | 100% |
| 制服・作業服 | 作業服 | 10 着 | 10 着 | 100% |
| インテリア・寝装寝具 | カーテン等 | 10 枚 | 10 枚 | 100% |
| 作業手袋 | | 400 組 | 400 組 | 100% |
| その他繊維製品 | ブルーシート等 | 5 枚 | 5 枚 | 100% |
| 役務 | 印刷、清掃、輸配送等 | 621 件 | 621 件 | 100% |

- ② 産業廃棄物の一元管理
安全・環境保全室が総合的な廃棄物の一元管理を行い、適正な分別や保管のルールを定めています。
- ③ 廃棄物抑制、リサイクル
 - ・「可燃」「不燃」「ミックスペーパー」「ペットボトル」「缶類」「ビン類」の分別ボックスを学内に設置し、教職員・学生に周知徹底しています。
 - ・毎週木曜日に「不燃粗大ゴミ」「木材」「パソコン類」「家電リサイクル製品」「新聞紙・雑誌他」「ダンボール類」等粗大ゴミ・古紙類の分別回収を行っています。
 - ・食堂、販売店等の構内営業事業者と共同で廃棄物の分別、リサイクルなどの取組を行っています。
- ④ 施設整備における省資源、リサイクル
建物設備の工事については、強度、耐久性、機能、コスト等に留意しながら、再生資材、省エネタイプの空調機、排ガス対策・低騒音型建設機械の採用、建設副産物のリサイクルなどを積極的に採用しました。
- ⑤ 教育研究用ヘリウムの再利用
機器分析センター低温室が供給している液体ヘリウムは、教育研究に使用した後ヘリウムガスとして回収され、液体ヘリウムに再液化し、再利用しています。

3 環境の維持及び化学物質等の管理

目 標：大学の環境の維持向上と教職員・学生の健康と安全を図る。

- ① 化学物質・薬品のデータベース管理を行うため、必要な機材を調達しシステムの稼働と一部試験的な導入を継続しました。
- ② 労働安全衛生法施行令の改正に伴い学内におけるアスベスト使用状況調査を行い、アスベスト含有率 0.1%を越え 1%以下のアスベスト含有吹付け材を使用していた武道場、ボイラー室、旧教育用計算機室の除去工事を実施しました。また改正により対象となったアクリライト、アソフイライト、トモナイトについても 7カ所の分析を行い含有していないことを確認しました。
- ③ G棟の耐震補強を含む全面改修及びC棟講義室の耐震補強、一部バリアフリー等の改修し環境の向上と教職員・学生の健康と安全を図りました。
- ④ 建築基準法による教育研究室等の特殊建築物等定期調査を実施し特定行政庁に定期調査結果を報告しました。
- ⑤ 産業医・衛生管理者による巡視を毎週行い、自主的な安全・環境パトロールにより不具合箇所、危険箇所等の改善を進めました。
- ⑥ PCBの保管についてはPCB特別措置法および東京都の指導要綱に基づき報告し、構内指定場所に厳重に管理保管しています。
今後、国の「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理基本計画」に基づき、ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理施設において処分する予定です。
- ⑦ 燃焼設備による硫黄酸化物(SOx)の排出量(大気汚染に係る負荷量)は年間 42.2m³で低減のために適正な空気比管理や台数制御を行っています。
- ⑧ 放射線取扱業務に従事する教職員・学生を対象に、安全講習会を実施し、学生・教職員等 181名が受講し放射線の人体に与える影響や安全な取扱い、法令等について講習を実施しました。
- ⑨ 高圧ガス(圧縮ガス、液体ヘリウムおよび液体窒素を含む)の利用者に対し、関連法規、規程や取扱いについての講習と実習、貯蔵所の見学を行い、安全な利用と運用方法を周知し安全意識の向上をさせるための保安教育を実施し、学生・教職員 144名が受講しました。



アスベスト除去



PCBの保管状況



高圧ガス貯蔵施設

4 環境に係る教育研究

本学では、環境に関連した授業を開講するとともに、環境に関する教育研究も行っています。

目 標：エネルギー問題、科学技術と人間・社会・自然・環境等に関する融合研究に重点を置く。

(1) 環境分野の授業科目

| 授業科目 | 授業科目の内容 |
|---------------|--|
| 地 理 学 B | ◆都市空間と課題、都市活動に伴う負の環境問題と対応等 |
| 宇 宙 ・ 地 球 科 学 | ◆科学技術を使った人間の活動が社会や自然に及ぼす影響について宇宙的視野で考え地球を大切にす |
| 環 境 論 | ◆環境問題の中から主として生態系に関わる諸問題の現状と意味を理解する ◆環境問題の実際を理解し今日の科学技術の果たすべき役割を自覚する |
| 環 境 工 学 | ◆環境関連法規、地球環境における科学的問題点、エネルギー変換など |

(2) 環境に関する研究テーマ

| 学科等 | 研究開発テーマ |
|-----------------|---|
| 情 報 通 信 工 学 科 | ◆超高層大気に地球温暖化の影響は及んでいるかの研究 |
| 電 子 工 学 科 | ◆希土類を利用した太陽電池の高効率化 ◆酸化チタン微粒子を用いた環境浄化 ◆地震電磁気現象（地震予知）、環境電磁工学、高周波工学、超高層プラズマ理工学 |
| 量 子 ・ 物 質 工 学 科 | ◆超音波キャビテーションによる材料科学 ◆生物発光のメカニズムの解明と発光物質の抽出生物発光をモデルにした新しい発光材料の追究 |
| 知 能 機 械 工 学 科 | ◆環境流体中のエネルギー・物質輸送現象の高精度予測 ◆都市域における汚染物質拡散挙動シミュレーション |
| シ ス テ ム 工 学 科 | ◆製品 LCA（ライフ・サイクル・アセスメント）のコンピュータ支援に関する研究／統合型製品 LCA による事業創造プロセスのモデル化と管理方法 |
| 研 究 ス テ ー シ ョ ン | ◆環境調和型ライフサイクル研究ステーション e3-プロダクトライフサイクルマネジメントシステムに関する研究 |

● 研究紹介「波長変換により太陽光電池の効率を向上させる」

太陽光を太陽電池に合わせる逆転の発想で発電効率を大幅アップ

電子工学科 河野研究室

● 電気通信大学 電子工学科 河野研究室 ●

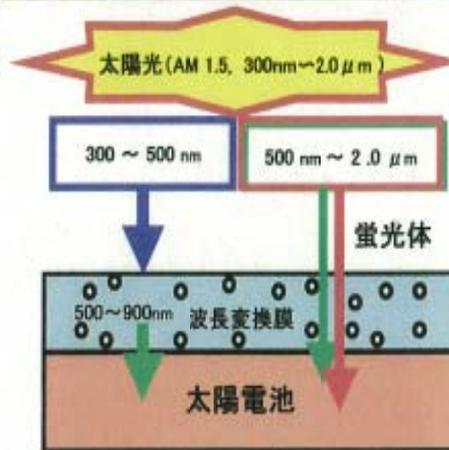
波長変換により太陽電池の効率を向上させる

登録番号 特許第3698215号

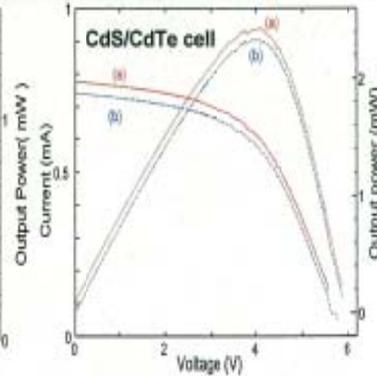
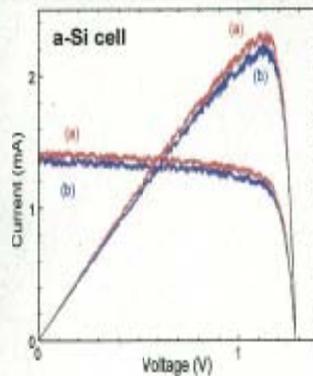
特徴とメリット

- 太陽光のうち、発電にあまり寄与しない短波長の光を、蛍光体(希土類、色素など)を利用して長波長の光に変換することにより太陽電池の効率を向上させる。
- 太陽光の分光特性を変えるため、太陽電池本体の分光特性を変更する必要がない。
- 既存の全ての太陽電池に利用可能。

波長変換のしくみ



波長変換の実際 と a-Si、CdS/CdTe太陽電池のI-V、P-V特性の向上



- 石英基板上にコートした蛍光体膜に紫外線を照射した際の波長変換の様子

- a-Si、CdS/CdTe太陽電池のI-V、P-V特性
(a) $\text{KMgF}_3\text{:Sm}$ 蛍光薄膜を付加後
(b) 太陽電池のみ

Technology Licensing Organization
E-mail: info@campuscreate.com URL: http://www.campuscreate.com

5 環境に関する図書の蔵書数

附属図書館では、政府機関発行の環境白書をはじめとする環境関連図書を約 1,000 冊所蔵しています。

これらは、学外の方々にも所定の手続きによりご利用いただけます。

図書館の利用方法、資料の検索は下記のHPからできます。

<http://www.lib.uec.ac.jp/>



6 構内の緑地保全

本学は、武蔵野の面影が残るキャンパス内の緑地の樹木剪定や植樹等の植栽管理を行い、緑の保全に努めるとともに、良好な教育研究環境を維持しています。

今年も、調布市民ボランティアグループ「調布 花・はな」により、春・秋の二回行われました。花植え作業は、本部棟玄関前広場の花壇で、教職員・学生も加わって行われましたが、花・はなグループでは、この他に保健管理センター北側の学生が集う広場の池周辺にも花植えをしました。



ボランティアグループと教職員・学生による花植え作業と構内花壇

7 その他の環境保全活動

(1) 地域・産学官連携推進機構（地域貢献部門）の取組

● 美化ボランティア

地域貢献部門の主催による美化ボランティア活動で大学周辺の美化に 29 名（学生 20 名、教職員 9 名）が参加しました。

拾ったゴミの量は

可燃ゴミ袋 大1 袋、不燃ゴミ袋 大1 袋、ミックスペーパー 小1 袋
ペットボトル 小1 袋、カン、ビン 合わせて小1 袋程度、
ゴミの内容ではタバコの吸殻、タバコの空箱、お菓子の包み紙が目立ちました。



電通大通り



ゴミ分別作業

(2) 構内事業者における取組

構内設備の維持保全業務を担当している㈱太平エンジニアリングでは平成 17 年 7 月に ISO14001 を認証取得し、環境問題や安全への取り組みを強化しています。

● 会社の取組

- ・毎月 1 回、全現場から勤務員を各 1 名ずつ集めて「常駐者会議」を開催しています。
- ・事故・故障などの情報を共有化して未然に防止する為、「コミュニケーションシート」「不適合・不具合報告書」を作成して、現場での業務に生かしています。
- ・「セルフチェック手帳」「ヒヤリハット集」などを用いた安全教育を実施しています。

・現場ごとに重点目標を定め、それに向けての取り組みや進捗状況などを話し合っています。

● 日常の業務中での取組

- ・災害ゼロを目標に、業務での危険な作業・場所などを話し合い、改善に努めています。
- ・毎日の巡回点検で、機器の不具合などを事前に把握し、大きな故障・事故に発展する前に対応し大学の業務に支障がないようにしています。
- ・冷暖房は、講義室の利用者の人数、外気温度等を細かく把握して、無駄のない快適な環境となるように運転管理を行っています。
- ・無人の教室でエアコンが運転したままになっていることが無いように、巡回点検時に不要箇所のエアコンを停止し、点灯している照明も適宜消灯しています。
- ・エアコンの OFF タイマーや省エネ設定を管理して消し忘れの防止に努めています。
- ・水の管理は巡回点検を行い、トイレの洗浄水・流しの水栓からの水漏れ・給湯器からのお湯の溢れなど、適宜調整・修理をしています。
- ・点検用のチェックリストなどはコピーの裏紙を利用し、作業に使う軍手・ウエスなどの消耗品も洗濯して再利用しています。



エネルギーセンターでのメンテナンス

VI 環境配慮の目標及び計画

2008 年度の環境配慮の目標及び計画は以下のとおりです。

○地球温暖化対策の取組

目 標:温室効果ガスの総排出量を 2009 年度に 7,501t-CO₂/年を目標として温室効果ガスの削減を図る。

計 画:設備面の対策として管理標準等による適正な運転管理、改修時等の省エネ機器への更新を行います。
運用面として省エネキャンペーンポスターやエネルギー使用量の公表による啓発を行います。

○省資源、廃棄物の抑制

目 標1:水使用量の削減に努める。

目 標2:e-キャンパスモデル校を目指して環境整備を推進し、コピー紙削減を図る。

目 標3:省資源で廃棄物量を抑制し、リサイクルに努める。

計 画:改修時に節水機器への更新を行います。
会議等のペーパーレス化や両面コピー・コピー裏面の有効活用を推進します。
グリーン製品の調達に努めます。
省資源、廃棄物の抑制、リサイクルに努めます。

○環境の維持及び化学物質等の管理

目 標:大学の環境の維持向上と教職員・学生の健康と安全を図る。

計 画:環境関連法令等を遵守します。
安全・安心な教育研究環境を維持・管理します。

VII 環境報告書ガイドライン対照表

環境配慮促進法の要求事項（努力義務含む）、環境報告ガイドライン（2007年版環境省）の項目例と本環境報告書掲載項目との対照一覧を次表に示します。

環境報告ガイドライン記載項目と本報告書記載項目の対照表

| 環境報告ガイドライン記載項目 | | 記載頁 |
|---------------------------|--------------------------|---------|
| 基本的項目 | | |
| 経営責任者の緒言 | | 1p |
| 報告にあたって基本的要件 | 対象組織・期間・分野 | 2,13p |
| | 報告対象組織の範囲と環境負荷の補足状況 | 2p |
| 事業の概況 | | 2p |
| 環境報告の概要 | 主要な指標等の一覧 | 4～8p |
| | 環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括 | 4～8,11p |
| マテリアルバランス | インプット、内部循環、アウトプット | 4～7p |
| 環境マネジメント指標 | | |
| 環境マネジメントの状況 | 事業活動における環境配慮の方針 | 1p |
| | 環境マネジメントシステムの状況 | 2p |
| 環境に関する規制遵守の状況 | | 3p |
| 環境会計情報 | | 5,6p |
| サプライチェーンマネジメント等の状況 | | 6,7p |
| グリーン購入・調達状況 | | 6p |
| 環境に配慮した新技術、DfE等の研究開発の状況 | | 8,9p |
| 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況 | | 10p |
| 環境コミュニケーションの状況 | | 10,13p |
| 環境に関する社会貢献活動の状況 | | 10p |
| 環境負荷低減に資する製品・サービスの状況 | | 8,9p |
| オペレーション指標 | | |
| 総エネルギー投入量及びその低減対策 | | 4～7p |
| 総物質投入量及びその低減対策 | | 4～7p |
| 水資源投入量及びその低減対策 | | 6p |
| 事業エリア内で循環的利用を行っている物質等 | | 6,7p |
| 温室効果ガスの排出量及びその低減対策 | | 4, 5p |
| 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策 | | 7p |
| 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策 | | 7p |
| 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策 | | 6p |
| 総排水量等及びその低減対策 | | 6p |
| 社会パフォーマンス指標 | | |
| 社会的取組の状況 | | 10p |

VIII 環境報告書の作成にあたって

● 参考としたガイドライン等

環境省「環境報告ガイドライン～持続可能な社会をめざして～（2007年版）」 2007年6月
環境省「環境報告書の記載事項等の手引き」 2005年12月

● 対象年度

■2007年度（2007年4月1日～2008年3月31日）

● 対象組織範囲

■電気通信大学調布キャンパス（学生寮、国際交流会館は除く）

● 発行日

■2008年9月30日

（2006年度環境報告書発行日：2007年9月25日、次回発行予定：2009年9月）

● 環境報告書の問合せ窓口

本報告書内容についてのご意見、ご質問、資料請求については、次の部署にお問い合わせください。

■電気通信大学施設課

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

TEL：042-443-5052 FAX：042-443-5061

● 外部への情報公開事項

本報告書に関連した環境活動に関する情報は、次のHPで閲覧が可能です。ただし、時期によっては年度更新等により掲載されていない場合や、Webアドレスが変更になる場合があります。

| 公開している環境関連情報 | Webアドレス |
|------------------|---|
| 中期目標 | http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html |
| 平成19事業年度実績報告書 | http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html |
| グリーン調達方針 | http://zaimu.office.uec.ac.jp/keiyaku/green/index.html |
| 地球温暖化対策計画書 | http://www.office.uec.ac.jp/www/jouhoukoukai/jouhou/houteikoukai/index.html |
| 産業廃棄物適正処理報告書 | http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/sanpai/index.htm |
| 事業概要 | http://www.uec.ac.jp/about/index.html |
| 研究者研究情報 | http://kjk.office.uec.ac.jp/scripts/websearch/index.htm |
| 電気通信大学生協同組合の環境活動 | http://www.uec-coop.or.jp/other/kankyo.html |